

平成 29 年度

事業所名：グループホーム あお空グループホーム赤前

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200178		
法人名	有限会社介護施設あお空		
事業所名	〒027-0202 あお空グループホーム赤前		
所在地	岩手県宮古市赤前第4地割83番地		
自己評価作成日	平成 29年 12月 12日	評価結果市町村受理日	平成30年3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&lgvsoyoCd=0390200178-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成 29年 12月 22日

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・毎日訓練をおこないます。台風の際、速やかに行動ができ避難先では落ち着いて過ごすことができた。 ・週に2～3回は外出します。気分転換ができます。 ・家族、地域の方々、保育園児、小学児童、慰問の方々との交流を大切にしています。楽しい時間を過ごすことで 笑顔が見られます。 ・活動時間はリハビリ、口腔体操、ゲームで和やかな雰囲気作りに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

宮古湾の西部の津軽石川近くに位置する開所7年目の事業所である。“真心”を持って接することを理念とし、利用者だけでなく職員同士や地域との繋がりを大切にしたケアに努めている。今年度は「地域交流」を重点とし、ホームでの敬老会や慰問の機会には、地域の方に案内し利用者と共に楽しむ交流が広がっている。東日本大震災の教訓を生かし毎月避難訓練を行っており、実際の台風時には混乱なく迅速に避難所の小学校へ移動できた。職員は利用者と家族の一人としての絆で結ばれており日々の暖かいケアと、安心・安全な事業が展開されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会]

平成 29 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム あお空グループホーム赤前

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	確認や振り返りを行いながら支援を行っている。月1回のミーティングでは参加者で確認、振り返りを行い業務や支援に反映させている。	法人理念を受け開所時皆で話し合い“真心”を核とした事業所理念を定めた。「笑顔・絆・思いやり・ぬくもり…」等のキーワードをカラフルにレイアウトしてホールなどに掲示し、特に“笑顔”を重点とし日々の実践に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老会、慰問の際には参加して頂き野菜や花を頂くこともあった。慰問の要望があった際は調整し行っている。	町内会に加入し、近隣の約50世帯との連携に努めている。地域行事に参加しており、保育園児の定期的来所がある。歌や踊りなどの慰問がある時は、地域の方にも案内し共に楽しむとともに、グループホームへの理解を深めて頂いている。	地域との連携を重点化し積極的に取り組んだ結果、慰問やホーム行事に地域の方々の参加が定着し理解が深まってきた。地域との絆を一層深め、東日本大震災の津波被災地での新たな繋がりを作り、地域づくりへの貢献を期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では普段の様子を報告している。来所時には、ありのままを見て頂いている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	避難時の意見が多く避難所のスロープ設置について、近所の方々の意見を聞くことができた参考になった。	委員は行政、地域、保育園、家族代表で、年度初めに警察や小学校の方にも参加して頂きホーム理解を図っている。災害時避難所の小学校の施設・設備についてトイレやスロープの意見が出され、改善策を行政に届けている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	集団指導、実地指導を通して様子を伝えることができた。転倒等も受診あり、なしに関わらず報告をおこなっている。	市介護保険課職員は運営推進委員として様々な情報を提供してくれるほか、市主催の研修では情報交換も行われている。市から家庭の事情による入居の打診があり2名が入居している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は防犯の為19時～5時まで行っている。外に出て行く入居者様には一緒に散歩、ドライブにだ掛ける等の支援をおこなっている。	研修を重ねながら、「少し待って」などの言葉による抑制を含めた具体的な事例を職員間で話し合っている。転倒防止のためセンサーを付けたり、スリッパに鈴を付けている。夕暮れ時に落ち着きを欠く方がおり、“穏やか”になる様な対応に心がけ、申し送りノートやミーティングで取り上げている。		

[評価機関：特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部内部研修を行い虐待防止に努めている。職員の気分転換や業務の協力、就労時間をまもりストレス軽減を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本人の小遣いを預かる際はホームに来ていただき本人も交えて確認を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	料金等の変更の場合は口頭、文書で理解をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価の家族アンケート、面会時、電話等で家族の要望、意見を聞くことができる。面会は少ないが職員は本人の思いを理解するよう努めている。	面会や行事での来所時に家族と話し合い、また、写真を多く掲載する広報「まごころ便」を家庭に届け感想や要望の把握に努めている。遠方の場合、ホームでの様子や通院報告・予防接種について電話で相互に確認合っている。季節に応じた衣類の補充についての声が届いた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	報告、連絡、相談を行いながら情報共有を行い、必要時、本社へ報告や各申請を行っている。	日々のミーティングや申し送りノートを活用し、気づいた事を出し合い改善に努めている。多額の予算を伴う修繕や購入は本社で届け検討している。職員意見等により勤務変更等の疑問を解消している。或いは掃除機やフードプロセッサーも職員の意見で購入している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務実績等把握した上での給与水準への反映や資格取得の助成、資格合格者への祝い金を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には交代で参加するよう努めている。今回、ケアマネ研修の際は、職員の協力を得有休で対応行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会や他の研修等で情報を得ている。特に県のGHの実践報告は資料回覧し1月に内部研修の予定をしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族から情報を得て支援内容を検討、実施している。生活していく上で何気ない会話からも本人の意向をくみ取り希望に答えられるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に可能な限り時間をかけて、要望、困り後等うかがうようにしている。様々な事情を聴くことで不安が軽減されていると思う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	慣れない環境で不安にならないよう今までの日常生活を可能な限り続けられるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護や援助をするだけでなく、個々の能力に応じた作業に参加して頂き、活躍できる場、必要とされていることを実感できるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議への参加依頼、面会時、ゆとり会話できる場の提供。広報紙は毎回郵送し、生活ぶりがわかり入居者様の存在を身近に感じて頂けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブで暮らした地域へ出かけている。ご近所の方々とは、挨拶だけではなく世間話もでき、GHが馴染み場所になりつつある。	入居時にこれまでの生活歴、馴染みの人や場所を把握しているが、年々来所される方は少なくなっている。家族の協力で墓参りや兄弟宅を訪れる方がいる。定期的に慰問で来られる方や、買物で訪れる店と新たな馴染み関係が生まれている方がいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で会話ができるよう相性も考慮した座る位置にしている。状況に応じ職員が間に入り孤立しないよう配慮している。衣類を直してやる等ほほえましい姿も見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	慰問、行事の際は家族、地域の方々にも声を掛け参加して頂く。入居者様の知り合いが訪れると互いに近況を話し合っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人とコミュニケーションを図り日常の様子を観察した上で、生活歴、家族からの情報も考慮し意向の把握に繋げている。	センター方式により今の姿を細やかに把握・分析し思いや意向の把握に繋げている。利用者のつぶやきや表情・態度から一人ひとりの思いを汲み取っている。不穏状態な時には「目をかけ、声をかけ」、落ち着くまで丁寧なケアに努め、思いを受け止めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族からの話に加え実態把握調査票も参考に、生活歴、今までの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の個々の日課、生活のペースを把握し申し送りノート、ケース記録、職員間の引継ぎでその日の状態を把握し一体性のある支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りやカンファレンスで情報を共有し本人の要望を聞き家族と共有している。医療関係は看護師の確認を行っている。	毎月のミーティングで日々の申し送りノートやケース記録を基にカンファレンスやモニタリングを行っている。医療・看護の情報も加味し、検討が必要な利用者について、その内容を書き出して話し合い、家族の十分な理解のもとで作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	言動、体調の変化に気を配り変化あれば申し送りノート、職員間で引継ぎ対応、状態によってはカンファレンスを行い対応を決め支援内容の変更を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の生活歴を大切に日課にできる限り対応、外出、散歩、編み物、縫物、外食の機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	慰問、行事の際は家族、地域の方々にも声を掛け参加していただく。入居様の知合いが訪れると互いに近況を話し合っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時からのかかりつけ医に通院、状態変化があれば家族に報告し、緊急時や体調変化による受診では家族に同行お願いし状態を確認していただいている。	入居前からのかかりつけ医に継続受診し、家族の同行を原則としている。ホームでの様子を書面等で医師に届け、家族から受診結果の報告を受けている。家族の都合で職員や看護師が同行した場合には、受診結果を家族に伝え共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護体制は2週に1回の情報提供は口頭、書面で対応。緊急時は電話で確認。指示や処方を記入してもらい全員で確認、共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携と情報交換が主であるが、必要時、看護師や医師に確認を取りたいときも連携室を通しておこなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明を行うことで理解を得ている。家族の協力が必要であり対応できる範囲で支援に努めている。	入居時に事業所方針を説明し同意を得ている。実際の看取りは経験していないが、家族の意向を確認しながら医療機関、訪問看護と連携して終末期支援の準備をしていたケースはある。職員の研修を重ねながら、関係機関との連携を図っていきたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修などで緊急時の処方を学ぶ機会を設け講習会等あれば参加して実践力を身につけるよう努めていく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回の避難訓練、年に2回消防署立ち合い訓練を行っている。夜間想定は夜勤者を交代で決め日中に行っている。9,10月の台風では速やかに避難できている。	火災と自然災害を想定し毎月避難訓練を実施しており、利用者は戸惑いなく行動できている。防災マップを作成し関係機関との連携が図られ、注意報発令時は避難所である小学校へ移動している。職員の集合訓練も実施している。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で連携をとり声掛けの仕方等色々な意見を聞き取り入れて対応している。	利用者の言動を否定しない、命令口調や大声での声掛けを注意するなど、一人ひとりに応じて丁寧な対応を心がけている。居室の戸にロールカーテンを付け、夜間の明るさ調整やプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思の疎通が難しい方の対応は普段の過ごし方や言動を観察し職員との会話から聞きだすようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レク活動以外にも散歩やドライブ、買い物等の希望があるときはできるだけ行うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時の服装は本人と相談しながら決めている。男性の入居者には毎日電動髭剃りを手渡しして行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の食事は外注の為、利用者と一緒に行う事は少ないが、行事があるときやおやつ作り等は拒否なく参加されています。テーブル拭きも手伝っていただいている。	ご飯とみそ汁はホームで作り、おかずは外注しチルド食を利用している。汁物に入れる野菜を切ったり、いなり寿司・団子・ケーキなど、行事食やおやつ作りでは、利用者も参加して皆で調理を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は全体的に同じだが、おかゆ、副食の刻みの方が数名いるので観察を行い、支援している。ほぼ残す事無く完食されている。水分量はチェック表にて確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の状態に合わせて声掛けをしている。義歯が合っているか、痛みや汚れの確認を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を確認しながら、声掛け、誘導を行っている。皮膚の状態、ズボン上げ下げ等、夜間も同様、移動、トイレ内での見守り、介助を行っている。	夜間のみオムツを利用する2人を含め、日中は皆トイレで排泄している。入院時オムツを使っていた方がホームへ戻ってリハビリパンツとなり、職員の介助によりトイレを使えるまでになった事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人に合わせて、下剤や乳製品で様子を見て、便秘解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	不穏にならないように、声掛けの工夫をしている。リラックス、楽しく入浴していただけるように努めている。体の観察等を行っている。	週2回を原則とし、3回入浴される方は3人いる。入浴中はマンツーマンで会話を楽しみ30分程ゆったり過ごされる方が多い。入浴を避ける時は、声掛けを工夫したり職員を替えるなど柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中居眠りが見られる入居者には、昼夜逆転しないように日中の活動に工夫し、夜気持ちよく眠れるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容等は受診記録、報告、申し送りノートで情報を共有している。服薬の際は、必ず確認を行い、飲み込むまで見守りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	慰問は入居者様の楽しみで、歌や踊りを楽しんでいる。月二回、おやつ作りを行い皆さんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、ドライブに出掛け、四季を感じてもらえるようにしている。散歩に行きたい方は、近所を職員と一緒に歩く時もあります。車いすの方も天気の良い日は散歩する時もあります。	穏やかな日はホーム周辺の散歩をし、地域の方との触れ合いもある。ドライブで浄土ヶ浜などに出かけ外食も楽しんでいる。利用者個別の希望から、外出して寿司や刺身を食べるのを楽しまれる方もいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分での管理が難しいため、預かり金はホームで管理。個人で少額のお金を管理されている方もいます。職員と買い物に出かけたり、本人の希望を尊重し支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より、電話をかけたいと希望されたときは、時間帯を考慮しながら、かけるようにしています。ホームの広報は2か月に1回、家族に郵送しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除、洗濯干し、たたみを行なってもらっています。ホールを中心に、共有の空間が配置されており、トイレ、浴室、居室を間違えないように入口に張り紙をしている。	ホール兼食堂は事務室や厨房から見渡せる広い空間であり、保育園児との交流や慰問で来所される方々との触れ合い活動がなされている。温度・湿度が快適に保たれ、テレビやカラオケセットがある和やかな空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	馴染みの場所でテレビを見たり、洗濯物をたたんだり、入居者同士でおしゃべりをして過ごされています。職員と一緒に歌を歌ったり、楽しい時間を過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	継続した暮らしができるように慣れ親しんだものを使用していただくようにしている。住み慣れた環境により近い生活をしてもらえるようにしています。	花の名の表札が付けられ、扉のロールカーテンでプライバシーを守っている。夏はエアコンで夜間の室温を調節する。使い慣れた小物、人形、テレビ、家族写真や位牌を持ち込み、居心地よく過ごす工夫が図られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	テレビルームの場所を変えたところ、入居者同士の会話も増え、雰囲気も良くなりました。		